

# 高橋 健一 (宮城県) 2012年3月 防災士資格を取得

## 組織として(+夫婦としても) 防災に取り組む



高橋健一さんは防災士会みやぎ（日本防災士会宮城県支部）の役員として、防災講話や防災訓練運営に活躍しています。

その精力的な活動の源泉は「東日本大震災で味わった自身の苦しい経験をだれにもさせたくない」との思い。その思いを奥さまも共有、防災士会とともに夫婦での「自助」「共助」への取り組みを日々続けています。



防災講話で登壇する高橋健一さん

宮城県は地域防災リーダーの育成に向けて「宮城県防災指導員」制度を設けており、そのフォローアップ講習を防災士会みやぎが担当しています。この講習では「地域における防災マップ作成」「避難所運営マニュアルの作成」「避難行動要支援者支援体制づくり」「自主防災組織等における防災計画・マニュアルの作成」の4つのコースを設けています。その中で高橋さんは、東日本大震災当時、山元町立山下中学校で避難所運営に携わった経験から「避難所運営マニュアル作成コース」を担当し、体験を踏まえて講義をしています。

高橋さんは、「避難所は避難者の一時滞在施設というだけでは不十分。将来避難所を出るときに、たくましく生きていく(自立する)心を持つための準備の施設にしたい。仮設住宅や自宅再建、災害復興住宅へ移ってから新たなコミュニティ、人間関係づくりの手立てを経験する場です」と語ります。

ほかに、県内各地の町内会(自主防災組織等)での

防災講話を行うほか、最近では民生委員や居宅介護支援事業所などと共に要支援者の個別避難計画作成に向けた活動も行い、防災と福祉の連携が欠かせないと訴えています。

また、防災士会みやぎでは、子どもたちに命の大切さを伝える幼児向け減災絵本「リオン」を作製。幼稚園や保育所、児童センターなどで読み聞かせをして、子どもたちの防災意識を高めています。

高橋さんの防災活動で特筆されるのは、奥さんとともに防災活動に取り組む姿勢——「私は、東日本大震災で経験したような苦しい生活を体験する人が一人でも少なくなるようにとの思いから活動していますが、家内も楽しく防災意識を高める一助にと、松風凜という名で『防災絆音頭』を作詞作曲、振り付けをして、町内会の夏祭りや老人ホームなどで披露しています」とのことです。



幼児向け減災絵本「リオン」



高橋さんが担当する「避難所運営マニュアル作成コース」HUGの様子